

令和2年3月10日

## 道道鷹栖東鷹栖比布線工事に係る報告書

突哨山運営協議会役員会  
代表 出 羽 寛 様

比布町長 村中 一徳

日頃より、突哨山及び周辺の自然・環境の保全事業等に御尽力いただきまして、大変ありがとうございます。

本路線については、突哨山から北部の山地へと続く自然豊かな土地の中にあり、保全していくためにも出来る限り、環境に配慮した工事を行っていきたいと考えております。

そのために、令和元年5月20日付けの道道鷹栖東鷹栖比布線工事に対する要望書及び、昨年開催した全3回のワークショップで協議を行った内容について、現時点での報告をさせていただきます。

1点目です。要望書にありました環境調査の実施についてですが、平成30年6月に行った調査では時期的にカタクリの花期を外していたために、令和元年5月7日に再調査ということで協議会の皆さんと計画路線上の調査を行いカタクリの群生地を発見しております。その後、コンサルタントにより水中動物の調査を行い、その結果は12月の第3回ワークショップにて報告しているところです。

カタクリの群生地については、計画ルートを回避することを検討しましたが、沢地を縦断する事での事業費増、沼地の湿性植物等の影響、線形を変えることにより道路のカーブがきつくなる事が考えられるなど、走行しやすい線形への改良という本来の目的から乖離する等のデメリットがあるために、現計画案で事業を進めてよいと合意いただきました。

なお、カタクリ群生については移植を前提として、他の事例を参考に順応的に保全を進める様に考えており現在調査中です。

2点目です。こちら要望書やワークショップで協議を行いました、生息動物のロードキル等への対策、特に生態系に配慮した「エコロード」の整備を行うという可能性はありますか？というご意見についてです。

大型動物のロードキルについては、供用後に事故が多いようであれば看板設置等で対応していきたいと考えております。

また、水棲生物の移動を考え横断水路は四角型を使用することや、小動物の脱出用トラフの設置等の検討については、実施設計時にトラフや柵等の配置が決まった段階で、調査結果と照合して設置を検討することとします。

これらの小さな配慮を総称して、エコロードとお考えいただきたいと存じます。

3点目です。要望書に工事の方法についてとあり、法面緑化の例が記載されていましたが、在来種の保全是大切と考えており、法面緑化の際には現地のすき取り土（自生している草本類の根）を再利用し、埋土種子の発芽に期待した法面処理を考えております。

4点目です。ワークショップの中で微気象調査の必要性についての話がありましたが、これについて常磐公園も含め他の事例を調査しました。常磐公園の事例は、湖畔伐採に伴い、特定箇所への風況による影響が予見されたため実施されたかと思えます。他の事例としては、風力発電所の建設や国立公園での大規模事業、又は雪況調査など安全対策上、必要な場合に実施しています。

しかし、今回の事業規模（2km前後の地方道の線形改良）の場合は実施していないこと、また多大な費用が発生し困難であると考ええるために、微気象調査については実施できないという事でご理解していただきたいと考えております。

現段階では、上記に記載したとおりであります。

またワークショップでお話ししたように、この路線の終点付近で圃場整備事業の計画がありますが、路線案が決定しないと圃場整備の計画ができないために延伸している状況であります。事業期間から逆算すると今年度中には路線案を決定しないと圃場整備が行えなくなる事もありますので、今回の報告書を確認いただき、道道昇格後の工事に向けて事業を進めさせていただきたいと考えております。

以上となりますが、道道昇格後にはこれらの事を北海道にお願いし、出来るだけ環境に配慮した工事を行っていただけるように要望したいと考えております。

今後も、工事に係る情報等があれば協議をさせていただくことがあると思いますがよろしくお願い致します。

担当：比布町役場建設課  
課長補佐 大谷  
直通：0166-85-4807